令和7年5月19日

富士見市議会議長 様

議員名 伊勢田幸正

行政視察・研修（政務活動）報告書

下記のとおり、行政視察・研修（政務活動）を実施しましたので、報告いたします。

記

1 期 間 令和7年5月12日（月）13時半から16時過ぎ

2 参加者名 伊勢田幸正

3 場所（行政視察地・研修場所）
EXPOサロン（大阪市此花区夢洲）
セルビア共和国パビリオン（同）

4 調査・研修概要

① 「地域における万博の活用等」

万博会場の中のビジネス用の施設があり、そこが研修の会場であった。

万博協会から、万博の歴史からはじまり、今回の万博のコンセプトについて説明が行われた。

地域で万博を活用できる取組として下記の事業の紹介があった。

・募集は締め切られているが、内閣官房の「万博国際交流プログラム」が紹介された。

・万博によるインバウンド客に向けた観光・イベント情報の発信の取組が行われている。体験が伴う旅行商品について、募集が行われており、ウェブサイトは10月末までとのことであった。

<https://www.expo2025travel.jp/page/3/ja>

・万博で使われた機材やパビリオンはリユースが原則であり、その詳細は「ミヤク市」<https://www.reuse-materials.jp/> で公開されている。万博では議論を呼んだトイレなども移設を前提に設計されている。なお原則は入札だが、自治体には無償提供される場合があるとのことだった。

なお各国のパビリオンについては各国の判断であり、そちらに問い合わせしてほしいとのことであった。

また研修のプログラムの一つとしてパビリオンの見学があり、今回「三菱未来館」の見学をしてきた。

② セルビア共和国パビリオンについて

セルビア共和国は2027年にベオグラード万博を控えており、ベオグラード博覧会のテーマの「Play for Humanity (人類のための遊び)」というテーマに沿っての展示がされていた。

セルビアの学者・文化人等からの肉声メッセージ、キャラクターを作成できるコーナー、ピタゴラスイッチのようなコーナーなどがあり、最後にはお土産としてセルビアの国旗の色が入ったビー玉が渡される。

またセルビア館はレストランが併設されており、セルビア料理やセルビア産のワイン、セルビアのアップルティーが提供されており、またテイクアウトともできる。

5 感想及びまとめ

・文化の杜公園のトイレも庁舎建設に伴い撤去か移設が想定されるが、例えば万博で使われたトイレの移設なども方法であると思った。

・内閣官房の「万博国際交流プログラム」は埼玉県内の自治体では参加しているところがなかったのが衝撃であった。セルビアとの交流を深めるチャンスであったと思うので、悔やまれるところである。

・改めて、2027年のベオグラード万博に向けたセルビアの熱意を感じ取ることができた。9月15日がセルビアのナショナルデーであり、セルビアのイベント等が予定されている。その際、市長の訪問も予定されているが、姉妹都市をはじめとするセルビアとの交流の活性化につながることを期待したい。

*行政視察に関する調査書、概要、参考資料等は、議員にて保管